

目次

口 絵	i
刊行のあいさつ	i
凡 例	ii
目 次	iv

第四編 近 世

総 説

第一章 相馬中村藩の成立と幕藩関係

第一節 相馬家と藩領域・石高

一 相馬家	8
二 所領と石高	21

第二節 中村城

一 中村城の成立	27
二 中村城の構造と諸施設	33

第三節 中村城下町

一 中村城下町の成立と構成	49
二 中村城下の土町	59
(一) 大手前から西山まで	59

第四節 相馬家と幕府

(二) 北町から袋町まで	64
(三) 新馬場から御壇小路まで	65
(四) 上川原北片町から柳馬場まで	69
(五) 砂子田表小路から北小人町まで	71
(六) 下向町から反町まで	73
(七) 清水町から清水中町まで	76
一 参勤交代	78
二 江戸の相馬中村藩	100
三 幕府への奉公	126
(一) 火消役	127
(二) 門番役	134
(三) 火之番・門番役の宥免	136
(四) 警固役	139
(五) 馳走役	141
(六) 将軍上洛と供奉	145
(七) 在番役・城番役	147
(八) 御手伝普請	154
(九) 御預人	158
四 譜代並と奥詰	163
(一) 譜代並	163
(二) 奥詰	167

第二章 相馬の藩主と藩政

第一節 初代藩主利胤の時代（慶長七年～寛永二年）

一 相馬利胤	174
二 慶長奥州地震津波と相馬中村藩	177
三 元和の訴訟	182

第二節 二代藩主義胤の時代（寛永二年～慶安四年）

一 相馬大膳亮義胤	188
二 検地と知行制	189
三 義胤の死と末期養子	191

第三節 三代藩主忠胤の時代（慶安五年～延宝元年）

一 相馬忠胤	198
二 検地と知行制	199
三 職制機構の整備	209
四 百姓一揆	213

第四節 四代藩主貞胤の時代（延宝元年～延宝七年）

一 相馬貞胤と妻子	220
二 相馬刑部事件	220

第五節 五代藩主昌胤の時代（延宝七年～元禄十四年）

一 相馬昌胤	226
--------	-----

二 藩の財政状況	227
----------	-----

（一）収入	228
-------	-----

（二）支出	234
-------	-----

（三）収支の動向	244
----------	-----

三 昌胤と藩政	247
---------	-----

第六節 六代藩主叙胤の時代（元禄十四年～宝永六年）

255

第七節 七代藩主尊胤の時代（宝永六年～明和二年）

一 相馬尊胤	256
二 尊胤と藩政	258

第八節 八代藩主恕胤の時代（明和二年～天明三年）

一 相馬恕胤と明和期の藩政	264
二 安永の家中騒動	265
三 安永・天明期の藩政	267

第九節 九代藩主祥胤の時代（天明三年～享和元年）

一 相馬祥胤と天明の飢饉	269
二 天明飢饉後の相馬中村藩政	273
三 『徳公遺範』	276

第一〇節 一〇代藩主樹胤の時代（享和元年～文化十年）

278

第二節 一代藩主益胤の時代（文化十年～天保六年）

一 相馬益胤の藩主就任と家臣団の抜擢……………281

二 文化の御厳法……………284

三 天保の飢饉……………290

第二節 二代藩主充胤の時代（天保六年～慶応元年）

一 相馬充胤と天保飢饉……………294

二 相馬充胤の改革政策……………299

第二節 三代藩主季胤の時代（慶応元年～慶応四年）……………304

第三章 相馬の家臣団

第一節 中村藩士

一 藩士の特徴……………306

二 農村社会と在郷給人……………310

第二節 城下侍・在郷給人・郷士

一 相馬中村藩士の数的構成……………313

二 中村城下の屋敷地……………321

三 在郷給人の編成……………322

第三節 城下士の家と生活―木幡八郎右衛門家の場合―

一 木幡八郎右衛門家について……………325

（一） 木幡家と庶流・八郎右衛門家……………325

（二） 木幡八郎右衛門家の石高の変遷と役職……………328

二 木幡八郎右衛門家の一年―年中行事の記録から―……………333

三 木幡八郎右衛門家の幕末維新……………345

（一） 木幡八郎右衛門家と戊辰戦争……………345

（二） 明治維新期の木幡八郎右衛門家……………346

第四章 相馬の文化

第一節 相馬の詩歌

一 相馬昌胤の連歌と和歌……………352

二 御歌所打它家と藩主……………357

第二節 松川十二景と相馬の名所

一 松川十二景和歌……………363

（一） 新名所松川十二景……………363

（二） 景勝地としての松川浦……………366

二 「奥相志」のなかの相馬の名所……………369

第三節 相馬の武芸

一 馬術……………372

二 弓術……………373

三 槍術	374
四 砲術	376
五 剣術	377
六 柔術	379

第四節 野馬追

一 近世の野馬追	380
二 藩の馬政	384
三 描かれた野馬追	388

第五章 相馬の思想と学問

第一節 相馬中村藩の学問・教育と思想

一 藩校教育と思想的展開	394
（一）学問・教育への眼差しと藩校	394
（二）藩校教育の展開	397
二 相馬中村藩をとりまく知識人	399
（一）学問・教育の展開	399
（二）国学受容と社会的普及	403

第二節 社会変容への対応

一 西洋諸国との対峙	408
二 社会変動と政治実践	412

第六章 城下町と商業・流通

第一節 城下町と港町

一 城下の町人町	416
（一）絵図にみる町人町の構造	416
（二）町人町の様相	419
二 城下町の支配機構	430
（一）「万控 羽根田氏」の世界	431
（二）町の役職・諸役人	438
（三）火事と火消し	443
（四）諸商売の統制	445
（五）酒造と御喇酒（きき酒）	447
三 港町原釜	449

第二節 相馬の商業と商人

一 吉田屋日記の世界	452
（一）吉田屋	452
（二）繰綿の取引	453
（三）砂糖の取引	456
（四）鉄（鉏）の取引	457
（五）鯡の取引	459
（六）質屋経営	469
二 酒造家・会津屋佐藤家	472
三 近江商人中井家の相馬店	476

四	近江商人野崎家の相馬進出	483
---	--------------	-----

第三節 相馬の海運と流通

一	東廻り航路と廻船の様子	488
二	相馬廻船の建造と運航	496

第七章 相馬の生業と産業

第一節 平場の生業

一	田畑での農耕	508
(一)	農作業と労働力	508
(二)	さまざまな肥料	527
(三)	農書『農事実録』	532
(四)	田畑の管理と売買・質入れ	534
二	川の利用	537
(一)	ため池と用水	537
(二)	盛んな内水面漁業	546
三	村々の多様な生業	550
(一)	農産加工業の展開	550
(二)	百姓の諸稼ぎ	554
(三)	資源利用の知恵	556

第二節 山場の生業

一	山利用と山論	559
---	--------	-----

二	山野の管理と植林	561
---	----------	-----

三	豊富な山の資源	564
---	---------	-----

第三節 漁業と塩業

一	浦の世界	566
二	海と浦の漁業	568
三	他領からの移入の魚	570
四	塩業	571

第四節 藩の勸農と飢饉対策

一	相馬中村藩の農政	577
(一)	勸農の精神と実践	577
(二)	安政三年の勸農政策	581
二	凶作・飢饉時の藩の御救	585
(一)	文政八・九年の凶作対策	585
(二)	天保四年の大凶作下での御救	588
(三)	天保七年の凶作と飢饉	596
(四)	勸農・御救の担い手としての在郷給人	601

第八章 御仕法

第一節 二宮尊徳と報徳仕法

一	二宮尊徳の生い立ち	606
二	報徳仕法の展開	611

三 二宮尊徳の思想と報徳仕法の仕組み	616
--------------------	-----

第二節 御仕法導入の前提

一 富田高慶の尊徳入門	622
二 藩の尊徳への接近と幕府	627
三 御仕法発業へ向けて	636

第三節 御仕法の発業

一 御仕法の着手	641
二 御仕法の諸事業	643
（一） 坪田村の様子	643
（二） 坪田村仕法の財源	645
（三） 給付事業	648
（四） 貸付事業	653
（五） 土木普請事業	657
（六） 坪田村仕法の仕上げ	660
（七） 御仕法の広がりと成果	662
三 御仕法の諸相	664
（一） 商人の仕法	664
（二） 藩士の仕法	668
（三） 御仕法掛	671

第四節 幕藩政のなかの御仕法

一 御仕法と幕府の役負担	679
--------------	-----

二 日光神領仕法と相馬中村藩	681
三 蝦夷地開拓への相馬中村藩士の派遣	684
四 藩政と御仕法	686

第九章 相馬の宗教

第一節 相馬中村藩の寺社と統制

一 領内の寺院とその支配	698
（一） 相馬中村藩領の寺院	698
（二） 相馬の修験寺院	703
（三） 「相馬寺院記」からみた寺院	704
（四） 寺院の統制	706
二 領内神社の支配と編成	708
（一） 相馬の神々への信仰	708
（二） 相馬中村藩の神社支配	709
（三） 神道裁許状と相馬昌胤の政策	710
（四） 寺社書上類にみえる相馬の神社	711
三 相馬の普化宗寺院	714
（一） 虚無僧寺喜染軒	714
（二） 虚無僧の特権と近世後期の動向	717
第二節 相馬中村藩の祭祀と神仏	719
一 相馬家の信仰	719
二 藩主相馬家の祈り	729

三 神として祀られる人……………	736
第三節 相馬中村藩領の修験とその活動	
一 上之坊・日光院と修験寺院……………	741
二 相馬三郡行事職と上之坊……………	745
第四節 浄土真宗門徒の入植と真宗寺院	
一 農村復興としての移民政策……………	753
二 真宗寺院の成立……………	756
三 真宗門徒の生活と寺僧の活動……………	760
第五節 人々の信仰と特色	
一 相馬の神祠……………	766
二 菩提所・祈願所と鎮守の信仰……………	767
三 相馬の観音霊場……………	771
第一〇章 相馬の幕末・維新	
第一節 幕藩体制の動揺	
一 開国への動きと相馬中村藩の対応……………	776
二 対外情勢の伝わり……………	781
三 攘夷運動と相馬家中……………	782

第二節 相馬中村藩と戊辰戦争	
一 会津征伐と奥羽越列藩同盟の結成……………	786
二 奥羽越列藩同盟への参加……………	790
三 奥羽越列藩同盟からの離脱……………	793
四 戊辰戦争と村……………	796
五 戊辰戦争による被害……………	798
六 戦禍からの回復……………	799
第三節 御仕法の終焉	
一 戊辰戦争と御仕法……………	802
二 明治初期の御仕法……………	804
三 富田高慶の御仕法継続運動……………	810
四 磐前県仕法の終焉……………	814
関係者一覧……………	817